



TITLE:

<教室通信>デザイン学大学院連携 プログラム

AUTHOR(S):

黒橋, 禎夫

CITATION:

黒橋, 禎夫. <教室通信>デザイン学大学院連携プログラム. Cue 2015, 34:
62-62

ISSUE DATE:

2015-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/201390>

RIGHT:

教室通信

デザイン学大学院連携プログラム

情報学研究科 知能情報学専攻 黒 橋 禎 夫

本稿では、文部科学省の博士課程教育リーディングプログラムに採択され2012年秋からスタートした「デザイン学大学院連携プログラム」についてご紹介します。本プログラムには、情報学研究科、工学研究科、教育学研究科、経営管理大学院が参加し、プログラムコーディネータは石田亨教授（情報学研究科社会情報学専攻）が務めておられます。電気系教室としては情報学研究科の知能情報学専攻、システム科学専攻、通信情報システム専攻が参加しています。

今日の社会には一つの専門領域では解決できない複雑化した問題が山積しています。このことは東日本大震災後の復興の難しさからも実感されます。博士課程教育リーディングプログラムは、5年一貫の教育によって俯瞰力と独創力を備え、産学官にわたりグローバルに活躍する人材の育成を目指す学位プログラムです。その中で「デザイン学大学院連携プログラム」では、情報学、機械工学、建築学、経営学、心理学などの多様な領域の教員が結集し、異なる分野の専門家との協働によって「社会のシステムやアーキテクチャ」をデザインできる博士人材を育成することを目的としています。その人材像を、突き抜けた専門性を持ち、かつ専門領域を超えて協働できる専門家という意味を込めて「十字型人材（+shaped people）」と呼んでいます。

本プログラムではいわばバーチャルな組織によってその教育・運営が行われています。参加する学生は、まず、上記専攻の修士課程にそれぞれの入試を経て入学し、入学直後の4月にデザイン学プログラムへの願書を提出して、書類・面接審査を経てプログラムの予科生となります。そして、半年間さまざまな教育プログラムに参加し、デザイン学の目指すところを理解し、また、博士後期課程への進学を決意した上で、修士1回生の10月から本科生となります。博士後期課程進学には再度、各専攻の入試に合格することが必要で、その上で、デザイン学に関して修士課程で学んだこと、また博士後期課程での研究計画などをQualifying Exam（博士論文研究基礎力審査）によって審査し、認められた場合にプログラム後半に進むことができます。

デザイン学プログラムの教育カリキュラムは、修士課程においては、デザイン学領域科目（各専門領域でデザインに関わる科目）、デザイン学共通科目（領域横断的なデザイン理論とデザイン手法に関わる科目）、さらに、演習科目であるFBL（問題発見型学習）、PBL（問題解決型学習）から構成されます。また社会問題の解決をデザインする実体験の場として、修士1回生ではデザインスクール in 沖縄、修士2回生ではデザインスクール in 香港があります。博士後期課程では、自分の専門領域以外のデザイン学領域科目の履修や、海外を含むフィールドインターンシップ、リサーチインターンシップ、複数領域の専門家の議論をファシリテートするオープンイノベーション実習などを行います。さらに、社会の大きな課題に挑戦する産官学リーディングプロジェクトに参加し、複数領域の指導教員のもとで博士研究を行い学位論文をまとめます。このような活動の拠点として、京都リサーチパーク内にデザインイノベーション拠点、吉田キャンパス内にデザインファブリケーション拠点を設け、また産学の連携推進のために企業約50社が参加するデザインイノベーションコンソーシアムを立ち上げています。

2013年春から学生募集を始め、現在は1期生の博士1回生が14名、修士2回生が16名、修士1回生（予科生）が15名在籍しています。いよいよこの春から博士学生が誕生し、社会的課題に取り組むリーディングプロジェクトを通じた博士研究も始まっています。一方で、このような文科省プログラムの常として、その期間は6.5年、すなわち博士修了生が2回出たところで予算は終了となります。本プログラムが当初の目標どおりの人材育成を行えるのか、それが産業界などからも広く受け入れられるのか、そして何よりもプログラムが自立し、継続的なものとなり得るのか、この1～2年がプログラムの正念場です。産官学の先輩諸氏の一層のご支援とご鞭撻を頂戴できれば幸いです。なお、本プログラムには博士後期課程からの編入も可能ですので、社会において多様な専門家の協働の必要性を痛感しておられる若手OB諸氏の挑戦も歓迎致します。

[1] デザイン学大学院連携プログラム ホームページ：<http://www.design.kyoto-u.ac.jp/about/>